

千葉市政担当者 様

平成21年8月27日
都市局公園緑地部
動物公園飼育課
電話 252-7577

フタユビナマケモノの人工飼育最長記録更新について

動物公園で人工飼育を行っているフタユビナマケモノの赤ちゃん「タマチン」が、昨日（8月26日）で人工飼育の開始から1年となりましたのでお知らせします。

なお、人工飼育の国内最長記録を更新中です。

1 人工飼育の経緯

平成20年8月26日、動物科学館内のバードホールで、職員が、母親から落下したナマケモノを発見した。検討の結果、この母親は、過去にも子育てに失敗した経験があったため、人工飼育を行うこととした。

ナマケモノの人工飼育は難しく、1カ月以上の成功例は、国内では平川動物公園（鹿児島市）に続き、本市が2例目となる。この間、外国の飼育例から情報を集め、試行錯誤を重ねながら飼育を行い、昨年末には肺炎で一時危篤状態になって関係者を心配させたが、奇跡的に回復している。

今年7月19日に、平川動物公園が持っていた国内人工飼育最長記録（327日）を超え、現在も更新中である。

2 生育状況

生年月日は不詳（平成20年7月中旬ごろ） 性別は現在のところ不明

平成20年8月26日（人工飼育開始時） 体長 22cm 体重 520グラム

平成21年8月11日現在 体長 41cm 体重 3,300グラム

3 現在の展示方法

- (1) 動物科学館で午前・午後各2時間展示（9:30～11:30、13:30～15:30）
- (2) 夏休み期間中の8月30日（日）まで、動物科学館でこれまでの成長記録のパネル展示を開催中。この会場では、毎日13時15分から約15分間、担当者が「タマチン」を連れて説明を行っている。

4 今後の飼育方針

他のナマケモノと一緒に動物科学館内のバードホールで飼育できるよう、毎日、成長に合わせて木登りの訓練を行っており、樹上生活に適応させる。

◎ 参考

動物公園では、「タマチン」以外に、3頭(雄1・雌2)のフタユビナマケモノを、動物科学館内バードホールにて飼育している。

フタユビナマケモノについて

分類：貧齒目フタユビナマケモノ科

分布：南アメリカ、中央アメリカ熱帯林

食物：葉、新芽、果物

生活：単独で生活し、木の枝に長い爪を引っ掛けぶら下がる。排尿は木から降りて行い、排便は週に1～2回、同様に木から降りてする。

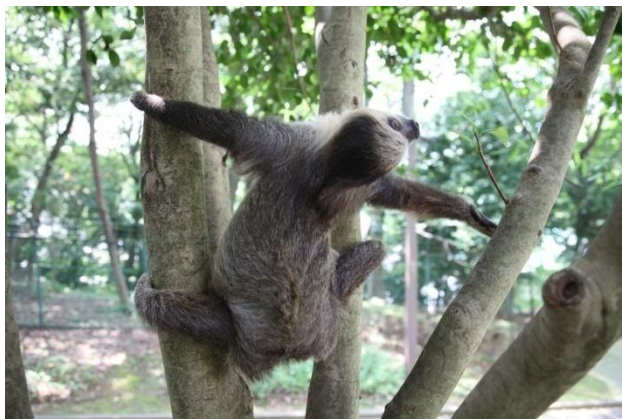
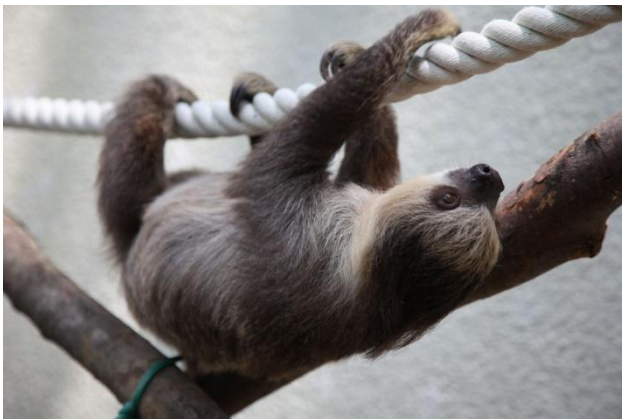
父親、母親個体：

母親個体(雌) 1991. 9. 1 当園にて繁殖

父親個体(雄) 1993. 8. 20 動物取扱業者より購入

国内飼育頭数：

10 園館 雄 8 雌 8 不明 3 合計 19 頭



※3点とも平成21年8月18日撮影